

平成29年度 第 10 回教育委員会定例会

議決事項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>議案第 1 号 垂水市社会教育課内における 情報提供コーナー施設の設置及 び管理に関する規則を廃止する 規則について</p>	<p>垂水市社会教育課内 における情報提供コー ナー施設の設置及び管 理に関する規則を廃止 するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	<p>承 認</p>

平成29年度 第 10 回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成30年1月10日（水）</p> <p>午後1時55分</p> <p>↓</p> <p>午後3時17分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育長 坂元 裕人</p> <p>教育委員 野村 繼治</p> <p>教育委員 田原 正人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p>	<p>教育総務課長 池松 烈</p> <p>学校教育課長 下江 嘉誉</p> <p>社会教育課長 野嶋 正人</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成29年度第10回教育委員会定例会を開会した。

2 平成29年度第9回定例会会議録の承認

承認

3 議 事

議案第1号 垂水市社会教育課内における情報提供コーナー施設の設置及び管理に関する規則を廃止する規則について

4 その他

なし

5 委員並びに教育長及び課長報告

6 閉 会

議事内容等

3 議 事	議案第1号
社会教育課長	<p>垂水市社会教育課内における情報提供コーナー施設の設置及び管理に関する規則を廃止する規則について</p>
田原委員	<p>垂水市社会教育課内における情報提供コーナー施設の設置及び管理に関する規則を廃止する規則について、その内容を説明</p>
社会教育課長	<p>結論に書いてあることは、廃止しても何らおかしいことはないと思うが、3ページに書いてあるこの規則のプリンター、コピー機、輪転機については、あそこについては、この近辺の振興会長さん達が活用したりするのがあったような気がするのだが。</p>
田原委員	<p>置いてあるのは、地区公民館の備品で、地区の振興会長さん達が使うもの。ここに書いてあるのは、情報提供コーナーでまず打ち出した原稿がある。その原稿をあの輪転機を使いながらしたいということだ。垂水市公民館と中央地区公民館の共有で利用している。そこで、どうしても使いたいというときは、ここで利用していただく。垂水地区で使いたいという方があれば、これからもお使いいただく。</p>
社会教育課長	<p>これからもこれまで通り活用できるということか。</p>
田原委員	<p>そうです。</p>
野村委員	<p>提案されたことで、このまま使うことはできるのか。機材は全部取り払うのか。どこからも何も出ないか。</p>
社会教育課長	<p>ここは廃止。でも使いたい人はどうすればいいのかということだが、図書館で使っていただくということだ。パソコンの使い方が分からないという方がいれば、また広報はするが、社会教育課で対応する。</p>
野村委員	<p>図書館でも対応するとなっているが。</p>
社会教育課長	<p>ある程度は対応するが、高度なことになると社会教育課で対応する。社会教育課の仕事のひとつに視聴覚ライブラリーという仕事があるが、視聴覚機器、情報機器の市民へのサービスということを主にやっている。視聴覚ライブラリーで対応させていただく。</p>
4 その他	なし
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告

教育長	委員並びに教育長及び課長の報告に入る。
野村委員	<p>1. 「成人式について」</p> <p>1月5日（金）成人式に出席した。今年度は、新成人対象者数 145名、内出席者実数は 106名であったと思う。メディアによると、鹿児島県内では、13,786名が大人の仲間入りをしたとのことだった。また、さらにこの数字は、最小であった昨年の記録を更新するものであるとのコメントもあった。</p> <p>式は、整然としたいい雰囲気で行った。全体的にスムーズで落ち着いたいい式典であったと思う。</p> <p>4名の代表による「はたちの主張」も、それぞれ自分の体験を踏まえた懸命な気持ちが込められた素晴らしい内容のものであった。いつの時代もそうだが、私達大人は、若者の在り方を、「今の若い者は・・・。」というような決まり文句で不満げに捉えてしまうが、実際は意外としっかりと成長しているのだなあと思えざるを得ない。あるいは、十分に評価できるのではないかということだ。</p> <p>また、映像企画も毎年工夫されているが、今年も新成人諸君にとってエキサイティングであった。フェンシング銀メダリストの太田氏、落語界の人気者林家三平、そして三遊亭円楽師匠といった錚錚たる方々に祝辞・激励をいただくということは、全国レベルで考えても普通ではあり得ない出来事であったと思う。我が垂水市の文化公演活動のレベルの高さを示すものでもある。ありがたいことだ。</p> <p>また、「礎^{いしづえ} ～未来への挑戦～」の式典タイトルも、非常に意味深い、若者にふさわしいグレードの高い表現であった。</p>
田原委員	<p>1. 「科学の祭典in垂水 2017について」</p> <p>12月16日（土）科学の祭典in垂水 2017に出席した。毎年恒例の科学の祭典が今年も多くブースを設けて開催された。全体としてあっと驚く実験ブースや観察したり作ったりして楽しむ理科工作ブースなど子供達を飽きさせない工夫がされているのがいい。中でも、毎年同じ実験なのだが、それでもまた見たくなる尾迫先生の液体窒素を使った超低温の状態変化の実験は、先生の風貌と語り口の絶妙さゆえ、すっかり科学の祭典の顔となっていると思った。子供達は科学の不思議さを身をもって体験できるいい機会だと思う。</p> <p>2. 「成人式について」</p> <p>1月5日（金）成人式に出席した。中央中出身者 4クラス 119名 市外の中学生26名 計145名の成人対象者参加者の実数は106名だったが、全体的に人数が少なくなったなあと感じた。</p> <p>はたちの主張を述べた4名の代表は、すでに就職している人、将来の職を定めてそれに向かって頑張っている大学生や専門学校生であったが、目標をしっかりと持っていること、親や周りの人への感謝の気持ち、故郷垂水を大事に思う気持ちなどがにじみ出た、いい主張だと思った。自分の20歳の頃を顧みて、今の成人はしっかりとしているなど感心した。</p> <p>ただ、健康管理に気を付けないといけないよという人もいた。</p>

中谷委員	<p>12月15日 絵本の読み聞かせ 16日 科学の祭典in垂水 2017 23日 子供会 24日 民生委員の高齢者へのそばづくり 31日 除夜の鐘 1月2日 浜駅伝 4日 新成人祝 5日 成人式</p> <p>1. 「新成人祝いについて」 年末から新年に向けて、皆さんと一緒にたくさんの行事にあうことができた。幼児から小中高生、大学生、社会人、大人とそれぞれの役割を持って楽しく参加することができた。その中で、1月4日に行った新成人を祝う会だが、校長先生外30人程で祝った。恒例の親の想い、子の想い、又、先輩成人のメッセージ等、同じ時、同じ場所で、大きく成長した頼もしい姿を眺めながら皆で食事をした。そこには、来年成人を迎える後輩もいれば、中学生もいる。自分達もいずれはあんなりたいと強く思ってくれるといいなと願いながら、私達地域の応援団の顔は満足、満足だった。子供達が頑張れるのは、頑張れる場所と頑張れる人がいてくれるからだ。</p> <p>2. 「どんぐり自然学校について」 暮れも押し迫った28日、玄関のチャイムがなり、開けると、5名の方が。「どなたかな。」とっていると、「どんぐり自然学校の生徒です。」と。なるほど、去年の秋に突然電話があり、学校から「農業体験に垂水に行くのだが、宿泊先が見つからない、引き受けてくださらないか。」とのこと。「お困りでしょう、うちでよければ。」とのことで、女子中学生が5名泊まったのだった。その時のお礼に来られたのだ。ご両親も一緒だった。 どんぐり自然学校は、鹿児島市の吉野にあり、自然の中で、いろいろな体験活動を中心に勉強する学校だそう。月謝がひとり6万円くらいかかるそう。いろいろな学校があるものだと思います、どの子供もひとりひとりが輝いて生きていけますようにと願うことだった。</p>
葛迫委員	<p>1. 「和田英作・香苗記念絵画コンクール審査について」 12月22日（金）和田英作・香苗記念絵画コンクールの審査があった。第4回目を迎える和田コンだが、今回の審査も例年同様私を含めた3名の審査員をお願いした。前鹿児島県美術協会会長 五反田邦夫氏、大隅美術協会副会長 向吉文男氏だ。両先生は、元垂水高校美術教師であったことで、垂水の文化や美術教育のことに関心が深く、とても熱心に指導してくれる方なので、毎年お願いしているところだ。 さて、一般部門だが、今回の出品点数は昨年を少し上回る97点が集まり、静岡、京都、熊本などの県外からも優秀な作品が集まってきた。この和田コンの特徴として、県内の美術コンクールでは珍しく県外からの出品者が多いということがあげられるが、そのことは県外にもよく周知されているということではないだろうか。そのことが優秀な作品がこの和田コンには集まることになっていると思う。ただ、県内の出品者が増えていかない苦</p>

悩はあるが、いい作品を集めていくことが、さらなる高みのある展覧会となり、県内からの出品点数増加につながっていくと感じている。審査に関しては、入選点数を85点前後とした。また、賞の点数に関しても、昨年までの16点から、後援賞を導入することで、30点の賞数を獲得することになった。垂水市からは、7名の受賞者が出たところだ。賞の数が増えたことで今後出品者が増加するのではと期待するところだ。

ジュニア部門だが、出品点数が少ない。和田コンの展覧会に出品してみようという作品が少ない。県図画作品展に出品する作品ぐらい出品点数が欲しいと思うが、図画・美術の科目授業だけでは、そのところは難しいのではと感じるので、夏休みや土日などを利用して和田英作ジュニア教室を再開してみることも考えてほしいと感じる。

教育長

1. 「成人式について」

実行委員会のメンバーが頑張ってくれて、「礎^{いしづえ} ～未来への挑戦～」のテーマのもとにいい成人式ができたんじゃないかと思う。運営する社会教育課、教育委員会としては、もう少し改善の余地があったのかなと思う。と言うのが、今年初めて入学から卒業まで一緒に過ごしたメンバーが、初めてこうして成人式で集まったということで、プログラムの終わりの頃に、中央中学校の校歌の斉唱の場面があった。このところで、成人のみなさんの声こゝろが小さいというのがあって、考えてみると、当然座ったままなので声は出ない。立たせるとか、あるいは、歌詞を資料ではなく、プレゼンで前に示すとか、いろいろ工夫の余地があったのかなと思うことだった。いずれにしても、子供達があそこに集まって、はたちの主張を聴き、そしてお互い旧交を深める中で、新たに二十歳をスタートしていくという意味でもすごく意義のある式だと思っている。全国では、横浜等々、やんちゃをする成人式が行われている中で、垂水市の非常に落ち着いた成人式ができてよかったと思う。とりわけ、委員からも出たが、はたちの主張だが、素晴らしい子供達が着実に育っているなと思いながら聴くことだった。このはたちの主張をビデオにでも撮っておいて、たとえば、半成人式とか区切りで子供達に見せるとか、中三の子供達に見せるとかすると、「ああいうお兄ちゃん、お姉ちゃんになりたいな。」というあこがれの存在にもなると思いながら聴かせてもらった。やはりもったいない。いい子供達のいい表現というのは、是非後に続いていく子供達に聴かせたいものだと思った。

2. 「『日本一鹿児島黒牛』地元牛肉PR給食試食会について」

今日行われた「日本一鹿児島黒牛」を祝しての給食試食会が水之上小学校で行われた。学校給食で、小学生で60グラム、中学生で90グラムほどの黒毛和牛をサイコロステーキで味わうという給食であった。子供達は本当に笑顔、笑顔で、冷めてもおいしい、いい肉は。冷めてこそおいしい。やはり、調理の工夫もなされており、パイナップルのエキスに浸しておく肉が軟らかくなる。そして、味付けのニンニク醤油もよかった。子供達の食べ方を見ていると面白いやっぱり。野菜を先に食べてしまって、サイコロステーキを残す訳だ。その後、御飯で食べる、最後に。やはり、好きなものは最後に残す。そんな食べ方をしている子供達がいっぱいいた。いずれにしても、そういうふうに関心食材を使って、子供達においしい食を提

	<p>供することは大事なことだと思った。給食甲子園の話も提供してもらった。今日は、報道関係はすべて来ていたみたいだ。MBC、KTS、KYT、KKB、あと、南日本新聞とか読売新聞とか新聞各社。このPRにもかなりの効果があるのではと思う。いずれにしても、子供達は地元食材に触れることで地元を自慢するそういうきっかけになればいいと思う。</p>
野村委員	水之上小学校と中央中学校だけか。
教育長	小学校と中学校全校だ。
野村委員	牛肉の費用と、水之上小に取材が入った経緯は。
学校教育課長	JAと市が半々で食材の和牛を買って、全校に同じメニューで出した。カンパチであれば、協和小、ブリであれば、北部3校のうちどれか、今回は、牛肉だったので、水之上小学校を紹介した。
教育総務課長 学校教育課長 社会教育課長	12月12日から1月10日までの主な行事等について報告。併せて、2月13日までの行事予定についてお知らせした。
6 閉 会	